

「居場所」感覚と青年期の同一性の混乱

堤 雅雄*

Masao TSUTSUMI*

The sense of “ibasho (existential place)” and identity diffusion in adolescence .

[キーワード：居場所，同一性混乱，自分，青年期]

[keyword : existential place , identity diffusion , self , adolescence.]

問 題

ある種の日常的疎外感情が、「自分の居場所がない」という言葉を通して表現されることがある。この「居場所」とは単なる物理的空間としての「場所」ではなく、自分が「居る」ことのできる、つまり自己の存在性が実感できる心理的場のことである。それゆえこの言葉の心理学的意味は、本来自明であるべき自己の実存が危機に瀕する青年期には特に重要である。近年臨床心理の領域を中心に、この「居場所」という概念を用いた論考が増え続けている。

例えば北山（1993）によれば、臨床の場で、「ある」とか「ない」とか言われる主体の事情を語る際には、それは「自我」や「自己」とは呼ばれず、「自分」という言葉が使われる。この「自分」は「自らの分」であり、そして「自分がある（ない）」とはほぼ自分の「居場所がある（ない）」の意であると論じている。

また荻原（2001）は、居場所は「自分」という存在感とともにあり、それは他者との相互承認という関わりを通して生まれ、更に自分がその世界を広げていく契機となる、という趣旨を述べている。疑いもなく、自分が自分であることは自己の内に完結するものでなく、常に他者との関係によって支えられている。その意味で、「自己」の成立には常に自己ならざる「他者」という契機を必須とするという逆説は改めて論を待たない（堤、1999）。

居場所とは自と他が交錯する場のことであり、それを通して自分という感覚が拡がったり狭まったりする、力動的な場のことである。とすれば、「居場所」には対照的な2つの面があることになる。一つはそこで他者との関係を形成し、他者によって自分の存在が確認され、求められる場、即ち自分という感覚が自己を越え、拡張していく場という面であり、いまひとつは他者との関係を離れ、だれからも邪魔されぬ自分だけの私的な世界へ閉じこもることが許される縮小の場という面である。藤竹（2000）は前者を「社会的居場所」、または「積極的居場所」、後者を「人間的居場所」、または「消極的居場所」と呼んでいる。

これらに加え、竹森（1999）や廣井（2000）など、「居場所」の臨床的意味に関する議論は盛んであるが、一方で、その実証的研究は少ない。中村（1999）は「居場所がある」状況と「居場所がない」状況とを「時」、「場所」、「人」、「行為」、「感情」、「他者」の諸観点から比較検討し、これらがなじみの有る無し、肯定と否定、ウチとソトなどと結びついていることを明らかにしている。

本研究ではアイデンティティ確立が発達の課題である青年期後期にあたる大学生を対象に、彼らが「居場所」という日常語を通して表明する意味空間がいかなるものか、またそれがかれらのアイデンティティ確立とどう関わっているのかを検証してみたい。

*島根大学教育学部心理学研究室

表1 「居場所」の連想語

| 項目 | 連想語 | 男 | 女 | 計 |
|---------------|-----------------|----------|----------|-----------|
| 空間 | 家(実家、家庭、故郷) | 28 | 44 | 72 |
| | 私的空間 | | | |
| | 部屋、居屋 | 14 | 26 | 40 |
| | 狭い空間(トイレ、風呂、台所) | 2 | 3 | 5 |
| | 友人、彼の部屋 | 1 | 1 | 2 |
| | 小計 | 45 (33%) | 74 (31%) | 119 (31%) |
| 公的空間 | 学校(教室、研究室) | 7 | 11 | 18 |
| | 自然空間(地球) | 6 | 9 | 15 |
| | 安全地帯 | 3 | 1 | 4 |
| | 部屋 | 1 | 3 | 4 |
| | 職場 | 1 | 1 | 2 |
| | 本屋 | 0 | 1 | 1 |
| | 小計 | 18 (13%) | 27 (11%) | 45 (12%) |
| 他者 (重要な他者) | 友人 | 12 | 21 | 33 |
| | 家族 | 6 | 21 | 27 |
| | 恋人 | 1 | 6 | 7 |
| | 尊敬する人 | 0 | 1 | 1 |
| | 小計 | 19 (14%) | 49 (20%) | 68 (18%) |
| 人間関係 | 他者関係 | 3 | 6 | 9 |
| | 他者の存在 | 0 | 2 | 2 |
| | 所属(サークル、職場) | 0 | 1 | 1 |
| | 小計 | 3 (2%) | 9 (4%) | 12 (3%) |
| 自己 | 自己、自分 | 6 | 3 | 9 |
| | 自己の存在 | 2 | 0 | 2 |
| | 小計 | 8 (6%) | 3 (1%) | 11 (3%) |
| 物 | イス | 1 | 0 | 1 |
| | 本 | 1 | 0 | 1 |
| | 決められたもの | 1 | 0 | 1 |
| | 小計 | 3 (2%) | 0 (0%) | 3 (1%) |
| 活動 | サークル | 3 | 4 | 7 |
| | バイト | 3 | 4 | 7 |
| | 活動(居場所探索) | 1 | 3 | 4 |
| | 趣味 | 3 | 0 | 3 |
| | 食事 | 0 | 2 | 2 |
| | 睡眠 | 0 | 2 | 2 |
| | 夢 | 0 | 1 | 1 |
| | 音楽 | 1 | 0 | 1 |
| | スポーツ | 1 | 0 | 1 |
| | 日光浴 | 0 | 1 | 1 |
| | 小計 | 12 (9%) | 17 (7%) | 29 (8%) |
| 感情 | 安らぎ(安心) | 18 | 26 | 44 |
| | 居心地(心地よい) | 2 | 16 | 18 |
| | くつろぎ | 4 | 9 | 13 |
| | 暖かさ | 1 | 5 | 6 |
| | 自由 | 1 | 2 | 3 |
| | 幸せ | 0 | 1 | 1 |
| | 充実 | 0 | 1 | 1 |
| | 小計 | 26 (19%) | 69 (25%) | 86 (23%) |
| 反対語 | 窮屈 | 1 | 0 | 1 |
| | 不安定 | 1 | 0 | 1 |
| | 暗い | 1 | 0 | 1 |
| | 寂しい | 1 | 0 | 1 |
| | 孤独 | 0 | 1 | 1 |
| | ホームレス | 0 | 1 | 1 |
| | 小計 | 4 (3%) | 2 (1%) | 6 (2%) |
| 出語数 | 計 | 138 | 241 | 379 |
| 一人当たりの出語数 | | 4.18 | 3.89 | 3.98 |

男性33名、女性62名

予備調査：「居場所」という概念

目的

現代の大学生は日常語としての「居場所」をどのような概念としてとらえているのか調査する。

方法

以下の3つの質問項目からなる質問紙に、無記名で自由記述を求める。

質問1（「居場所」の連想語）：「居場所」という言葉から連想される言葉を思いつく限り書いてください。

質問2（「居場所がある」という状況）：あなたにとって「居場所がある」と感じるのはどんな時、どんなところ、どんな意味ですか。思いつく限り書いてください。

質問3（「居場所がない」という状況）：あなたにとって「居場所がない」と感じるのはどんな時、どんなところ、どんな意味ですか、思いつく限り書いてください。

被験者：地方国立大学教育学部及び法文学部学生で青年心理学受講生，男子33名（平均年齢20.4歳），女子62名（19.9歳），計95名。

実施日時：1999年10月

結果と考察

1. 「居場所」の連想語

連想語としての反応総数は延べ379語，1人平均3.98語であった。これを空間（164），他者（80），自己（11），物（3），行為（29），感情（86），反対語（6）といったカテゴリ - に分けた後，更に細かく分類した結果を表1に示す。

当然ながら「居場所」の連想語としては空間的表現が全体の43%と多いが，特に自分の家や部屋を中心とした私的空間に関する言葉が多数を占める（31%）。次に多いのは安らぎや居心地，くつろぎといった肯定的感情語である（23%）。そして，友人や家族といった親しい人物（18%）などがこれに次ぐ。これらを総合すると，「居場所」とは，ひとりで，ないし親しい人と共有しう

る心地よい場を連想させるものである，といえる。

2. 「居場所がある」という状況と「居場所がない」という状況（表2，3，4）

「居場所がある」と考えられる状況は，安心でき落ち着ける「ところ」，自分が自然な自分でいられる「ところ」という，比較的持続的な精神状態を表わすものが大半であった。これに対し「居場所がない」と感じられる状況は，その場から疎外され，自分の存在価値が感じられぬ「とき」（恐らく一時的な）という表現が多い。

3. 居場所の意味（表5）

居場所の意味についての記述数は少ない。あらためて問われると答えづらいものであったからであろう。全体として居場所とは，自分が自分としてあるがままに居られるところという趣旨の表現が主であった。

予備調査の結果は全体に目立った性差は見られなかったが，例えば居場所があると感じるときについては，男性が「一人にいるとき」とか「実家にいるとき」を挙げるのに対し，女性ではそれらは殆んど見られず，「友達といるとき」が多かった。また居場所がないときについても「周りに溶け込めない」ときという表現が女性に特有のものであった。女性のほうが男性に比べ，より他者志向的であったことが示唆されている。

以上，予備調査の全体は，本研究実施とほぼ同時期に発表されていた中村（1999）の発想と，結果的にかなり共通する部分があったことを断っておかねばならない。

本調査：「居場所がない」感覚と自我同一性混乱

目的

予備調査を通して，「居場所」という言葉がその中核に，自分が安んじてあるがままの自分で居られるところ，即ち自己の実存の場という意味を現代青年が共有していることが確認された。この「居場所」の感覚は，ここが自分の「居場所」だという肯定的感覚よりは，むしろここは自分の居場所ではないという否定的意識を通してこそ実感されていると思われるが，その経験は青年期を通じたアイデンティティの確立の程度によって左右されるはずである。自分がまさにほかならぬこの自分であるという確信が持ち得ない者ほど，即ちエリクソンのいう自

表2 得られた回答の出現数

| 項目 | 居場所がある（男・女） | 居場所がない（男・女） | 合計 |
|----|-------------|-------------|-----|
| 時 | 46（21・25） | 121（43・82） | 171 |
| 場所 | 141（37・104） | 30（6・24） | 171 |
| 意味 | 27（17・10） | 10（3・7） | 37 |

表3 「時」の結果

| 「居場所がある」回答数46 (男21・女25) | | | |
|---|-----------|-----------|-----------|
| 語 | 出現頻度 (%) | 男 (%) | 女 (%) |
| 友達といるとき | 21 (45.7) | 21 (45.7) | 21 (45.7) |
| 一人にいるとき | 5 (10.9) | 5 (10.9) | 5 (10.9) |
| 実家にいるとき | 5 (10.9) | 5 (10.9) | 5 (10.9) |
| くつろぐとき | 4 (8.7) | 4 (8.7) | 4 (8.7) |
| 好きなことをしているとき | 3 (6.5) | 3 (6.5) | 3 (6.5) |
| バイト | 2 (4.3) | 2 (4.3) | 2 (4.3) |
| 共有しているとき | 2 (4.3) | 2 (4.3) | 2 (4.3) |
| 理解してくれる人がいるとき・安心感を持ちたいとき・必要とされているとき・何かに打ち込んでいるとき (各1) | | | |
| 「居場所がない」回答数125 (男43・女82) | | | |
| 語 | 出現頻度 (%) | 男 (%) | 女 (%) |
| 知らない人の中にいるとき | 24 (19.2) | 9 (20.9) | 15 (18.3) |
| 周りに溶け込めないとき | 16 (12.8) | 0 (0) | 16 (19.5) |
| 孤独を感じるとき | 15 (12.0) | 8 (18.6) | 7 (8.5) |
| 必要とされていないと感じたとき | 13 (10.4) | 8 (18.6) | 5 (6.1) |
| 疎外されたとき | 10 (8.0) | 3 (6.9) | 7 (8.5) |
| ケンカ | 4 (3.2) | 0 (0) | 4 (4.9) |
| 自分が出せないとき | 4 (3.2) | 2 (4.7) | 2 (2.4) |
| 認められないとき | 3 (2.4) | 0 (0) | 3 (3.6) |
| 意見・考えが合わないとき | 3 (2.4) | 0 (0) | 3 (3.6) |
| 自分の存在がないとき | 3 (2.4) | 0 (0) | 3 (3.6) |
| 寂しいとき・落ち着かないとき・話す人がいないとき・話の内容がわからないとき・一人になるところがないとき・忙しいとき・疲れたとき・失敗したとき (各2) | | | |
| 気を使うとき・困ったとき・恥ずかしいとき・悲しいとき・面白くないとき・精神的につらいとき・授業の内容がわからないとき・誰にも頼れないとき (各1) | | | |

表4 「ところ」の結果

| 「居場所がある」回答数141 (男37・女104) | | | |
|---|-----------|-----------|-----------|
| 語 | 出現頻度 (%) | 男 (%) | 女 (%) |
| 安心できる場所 | 33 (23.4) | 12 (32.4) | 21 (20.2) |
| 落ち着く場所 | 28 (19.9) | 5 (13.5) | 23 (22.1) |
| 自分を認められる場所 | 18 (12.8) | 6 (16.2) | 12 (11.5) |
| 自分らしくいられる場所 | 16 (11.3) | 2 (5.4) | 14 (13.5) |
| 居心地の良い場所 | 16 (11.3) | 9 (24.3) | 7 (6.7) |
| 一人でいられる場所 | 6 (4.3) | 2 (5.4) | 4 (3.8) |
| 気を使わないでいい場所 | 5 (3.5) | 2 (5.4) | 3 (2.9) |
| 癒される場所 | 5 (3.5) | 1 (2.7) | 4 (3.8) |
| 必要とされる場所 | 3 (2.1) | 2 (5.4) | 1 (0.9) |
| 意見を主張できる場所・守られる場所・静かな場所・安全地帯・自分が所属する場所・することがある場所・大切な場所・満足する場所・相談に乗ってくれる場所 (各1) | | | |
| 「居場所がない」回答数30 (男6・女24) | | | |
| 語 | 出現頻度 (%) | 男 (%) | 女 (%) |
| 落ち着かない場所 | 8 (26.7) | 0 (0) | 8 (33.3) |
| 受け入れられない場所 | 6 (20.0) | 0 (0) | 6 (25.0) |
| 不快な場所 | 3 (10.0) | 1 (16.7) | 2 (8.3) |
| 知らない場所 | 2 (6.7) | 0 (0) | 2 (8.3) |
| 自分が出せない場所 | 2 (6.7) | 0 (0) | 2 (8.3) |
| 人がたくさんいる場所・不安な場所・気を使う場所・プライバシーが守られない場所・自分がいてはいけない感じがする場所・自分の存在価値が見出すことが出来ない場所・仲間がいない場所・必要とされていない場所・精神的に疲れる場所 (各1) | | | |

表5 「居場所」の意味

| 「居場所がある」回答数27 (男17・女10) | | | | |
|---|------------|-----------|-----------|--|
| 語 | 総数 (出現頻度%) | 男 (%) | 女 (%) | |
| 必要不可欠 | 3 (11.1) | 21 (45.7) | 21 (45.7) | |
| とても重要なもの | 3 (11.1) | 5 (10.9) | 5 (10.9) | |
| 帰るところ | 3 (11.1) | 5 (10.9) | 5 (10.9) | |
| 安らげること | 2 (7.4) | 4 (8.7) | 4 (8.7) | |
| 自分らしくいられる | 2 (7.4) | 3 (6.5) | 3 (6.5) | |
| 楽しく話をする | 2 (7.4) | 2 (4.3) | 2 (4.3) | |
| いてもいいところ | 2 (7.4) | 2 (4.3) | 2 (4.3) | |
| 自分が発揮できる(1)、やりたいことができる(1)、自由でいられる(1)、居心地のよい場所(1)、過ごしている時間(1)、自分が中心にいる(1)、楽しく話をする(1)、自己の世界(1)、必要とされている(1)、自分の存在を実感できる(1) | | | | |
| 「居場所がない」回答数10 (男3・女7) | | | | |
| 語 | 出現頻度 | 男 (%) | 女 (%) | |
| 安らぐ暇が無い | 1 | 1 (33.3) | 0 | |
| 落ち着かない | 1 | 1 (33.3) | 0 | |
| 寂しい感じ | 1 | 1 (33.3) | 0 | |
| 焦り | 1 | 0 | 1 (14.3) | |
| 肩身が狭い | 1 | 0 | 1 (14.3) | |
| 緊張 | 1 | 0 | 1 (14.3) | |
| 理解してくれる人がいない | 1 | 0 | 1 (14.3) | |
| 帰るところがない | 1 | 0 | 1 (14.3) | |
| 存在がない | 1 | 0 | 1 (14.3) | |
| 必要とされない | 1 | 0 | 1 (14.3) | |

表6 自分らしくいられるときと安らぎを感じる時の関係

| | | 自分らしくいられるとき | | | | | | | |
|----------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| | | 全体 | 友人 | 家族 | 大学生生活 | バイト | 恋人 | ひとり | その他 |
| 安らぎを感じる時 | 全体 | 216 | 38 | 53 | 17 | 5 | 30 | 68 | 5 |
| | | 100.0% | 17.6% | 24.5% | 7.9% | 2.3% | 13.9% | 31.5% | 2.3% |
| | 友人 | 40 | 38 | 2 | | | | | |
| | | 18.5% | 17.6% | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 家族 | 58 | | 51 | 7 | | | | |
| | | 26.9% | 0.0% | 23.6% | 3.2% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 大学生生活 | 6 | | | 6 | | | | |
| | | 2.8% | 0.0% | 0.0% | 2.8% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | バイト | 2 | | | 2 | | | | |
| | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | |
| 恋人 | 54 | | | 2 | 5 | 30 | 17 | | |
| | 25.0% | 0.0% | 0.0% | 0.9% | 2.3% | 13.9% | 7.9% | 0.0% | |
| ひとり | 51 | | | | | | 51 | | |
| | 23.6% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 23.6% | 0.0% | |
| その他 | 5 | | | | | | | 5 | |
| | 2.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.3% | |

我同一性混乱状態 (identity diffusion status) にある者ほど、自分の「居場所がない」と感じやすいと考えられる。

この両者の関係を検証するのが本研究の主たる目的である。

方法

予備調査を通して得られた「居場所がない」という様々な経験の記述を23の項目に集約し、「居場所がない」という感覚の尺度として構成した。これと砂田 (1979)

の自我同一性混乱尺度を組み合わせた質問紙を作成し、その関係を分析した。

質問紙

フェイスシート (性別, 年齢, 生活形態, 部活・サークル, アルバイト経験, 恋人の有無)。

「あなたが自分らしくいられるときに、最もあてはまるのは？」

- 友人といるとき
- 家族といるとき

- c 部活・サークルをしているとき
 d 大学に居る時
 e バイト先で働いている時
 f 恋人といるとき
 g ひとりでいるとき
 h その他()
 「あなたが安らぎを感じるときに、最もあてはまるのは？」

a 友人といるとき、以下hまで、1, と同様の選択肢、「居場所がない」という感覚尺度、全23項目。それぞれにまったくない(1)からあまりない(2), 時々ある(3), よくある(4)の4段階評定を求める。
 , 砂田(1979)の自我同一性混乱尺度、33項目。い

れもはい、いいえのいずれかの2件法で回答を求める。

被験者

地方国立大学教育学部、及び法文学部学生、男性71名、女性144名、計216名。平均年齢それぞれ20.8歳、及び20.6歳。いずれも青年心理学、及び進路指導の講義の受講生である。

実施日時：1999年12月10日と2000年1月11日。

結果と考察

1, 「自分らしくいられるとき」と「安らぎを感じるとき」の関係(表6)。

両者の関係は非常に密接であり($r^2=590.70, p<.01$), 安らぎを感じるところが自分らしくいられると

表7 「居場所がない」感覚尺度、全23項目の因子分析 因子負荷量：バリマックス回転後

| 因子名 | 項目 | 内容 | 因子負荷量 | |
|----------------|---------------|---|-----------------------------|----------|
| 第一因子 対他的疎外感 | 2 | 自分が周りの人の輪に入れないと感じること | 0.739846 | |
| | 7 | 自分が周囲に受け入れられないと感じること | 0.710826 | |
| | 18 | 周りが親しそうにしている中で自分だけ孤立していると感じること | 0.63381 | |
| | 1 | 自分が周りの人に必要とされていないと感じること | 0.595043 | |
| | 3 | みんなの中で自分だけが無視されていると感じること | 0.579514 | |
| | 6 | あまり知らない人の中に一人でいると感じること | 0.552587 | |
| | 4 | 一人でいるとき自分の居場所がないと感じること | 0.474767 | |
| | 15 | 周囲が何かやっているときに自分は何もすることがないと感じること | 0.442404 | |
| | 21 | 人としてストレスを感じることに | 0.429028 | |
| | 16 | グループの中にいて自分が何かしなければならぬのに何をしてもいいかわからないと感じること | 0.387433 | |
| | 20 | 自分にとって得るものがないと感じること | 0.380317 | |
| | 17 | 慣れない場所において居心地が悪いと感じること | 0.363879 | |
| | 5 | 周囲の人の意見や考えに自分が共感できないと感じること | 0.315452 | |
| | 第二因子 自己疎外感 | 8 | 落ち込んで精神的につらいと感じること | 0.590347 |
| | | 9 | 一人でいてさびしいと感じること | 0.567362 |
| | | 12 | 自分の考えや悩みを誰にも分かってもらえないと感じること | 0.510508 |
| | | 22 | 自分で自分を見つめることができないと感じること | 0.491795 |
| | | 23 | 自分の思いどおりにできないと感じること | 0.473138 |
| | | 10 | 自分がなぜそこにいるかわからず戸惑っていると感じること | 0.466781 |
| 13 | | 周囲の人に冷たくされるとき自分の居場所がないと感じること | 0.463071 | |
| 14 | | 親しい人とケンカしたとき自分の居場所がないと感じること | 0.438184 | |
| 11 | | 自分らしさが出せないと感じること | 0.424237 | |
| 19 | | 自分のプライバシーが守られていないと感じること | 0.285667 | |

固有値表：回転後(バリマックス法)

| | 二乗和 | 寄与率 | 累積寄与率 |
|------|----------|--------|--------|
| 第一因子 | 4.309558 | 0.1874 | 0.1874 |
| 第二因子 | 3.043859 | 0.1323 | 0.3197 |

表8 自我同一性混乱尺度と居場所がないと感じる感覚との相関関係

| | 総得点 | 下位尺度における得点 | | | |
|--------|----------|------------|----------|----------|----------|
| | | 時間的展望の混乱 | 自意識過剰 | 役割固着 | 労働麻痺 |
| 対他的疎外感 | 0.4941** | 0.1938* | 0.3088** | 0.3542** | 0.3756** |
| 自己疎外感 | 0.4957** | 0.3362** | 0.3536** | 0.4259** | 0.3823** |
| 対他的疎外感 | | 向的混乱 | 権威混乱 | 価値混乱 | 同一性混乱 |
| 自己疎外感 | | 0.4117** | 0.4033** | 0.2130* | 0.2218** |
| | | 0.1041 | 0.2225** | 0.3622** | 0.3164** |

(ピアソンの相関係数 r を使用 1%有意：** 5%有意：*)

ころであるという強い関係が確認された。両者が重複する状況は主に家族や友人、恋人といった親密な関係の人と居るとき（計55.1%）であると同時に、ひとり有的时候（23.6%）でもあった。ここに前述の如く、「居場所」における自と他のアンビヴァレントな関係とともに、「居場所」感覚とアイデンティティ感覚との密接な関係がともに示唆されている。

2、「居場所がない」感覚尺度（表7）

32項目に対する評定値を主因子法による因子分析を行った結果、固有値、及び解釈可能性の見地から最終的に2因子解を採り、バリマックス回転をかけた。累積寄与率は32%と分散の説明率はやや低い。

第1因子は、自分が周りの人達から疎外されているという感覚を中心としたもので、対他の疎外感としての居場所のなさとなづけられる。

第2因子はこれに対し、意識は主として自己に向けられた否定的な感覚で、自己疎外感としての居場所のなさとなづけられる。因子得点をもとに性差を見ると、第1因子得点では男子の方が高い傾向にある（ $F=2.92$, $p=.09$ ）一方で、第2因子得点では逆に女子が有意に高かった（ $F=11.65$, $p=.001$ ）。男子のほうが相対的に自己の存在感を他者に、女子のほうが自己に依拠しがちなが、それが満たされないと感じやすい傾向が現れたものと見られる。

この「居場所がない」感覚の評定値と、砂田の自我同一性混乱尺度得点の相互関係を表8に示す。総得点は勿論、殆んどの下位得点間を含め、両者の有意な相関を得た。全体として、同一性混乱の度合いが高いものほど、対他の疎外感としての自分の居場所がないと感じる傾向

が高い（ $r=.49$, $P<.01$ ）と同時に、自己疎外感としての居場所がない感覚も大である（ $r=.50$, $p<.01$ ）といふかなり顕著な関係が浮かび上がった。

青年期に比較的一般的な自分の「居場所」がないという感覚を、「自分」という存在へ向けた実存的不安、即ち「本当の自分がない」という思いに全て還元できるのか否かは、この研究だけでは断言できず、他の精神病理、例えば抑うつ傾向などとの関連についても検討する必要があるが、少なくともその中核に自我同一性の混乱があるのは間違いない。

参 考 文 献

- 藤竹暁, 2000, 居場所を考える. 現代のエスプリ別冊, 47 - 57. 至文堂.
- 廣井いずみ, 2000, 「居場所」という視点からの非行事例理解. 心理臨床研究, 18 (2), 129 - 138.
- 北山修, 1993, 自分と居場所. 日本語臨床の深層 3. 岩崎学術出版.
- 中村泰子, 1999, 「居場所がある」と「居場所がない」との比較 - 法の基礎研究として. 大阪市立大学生活科学科 児童・家族相談所紀要, 18, 13 - 22.
- 荻原建次郎, 2001, 「子ども・若者」の居場所の条件. 田中治彦編, 子ども・若者の居場所の構想: 「教育」から「関わりの場」へ. 51 - 65, 学陽書院.
- 砂田良一, 1979, 自己像との関係からみた自我同一性. 教育心理学研究, 27, 215 - 220.
- 堤雅雄, 1999, 矛盾する心 - 青年期心性の理解のために (増補版). 晃洋書房.